

2017年4月23日(日)朝10:10  
4月第4共同主日礼拝式説教

主の復活節第2、教会総会等  
日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：第7のラツパ;瑕なき人々

聖書:ヨハネの黙示録 14章1～5節

＜口語訳＞

新約聖書399～400頁

ヨハネの黙示録 14章1～5節

＜新共同訳＞

新約聖書468頁

ヨハネの黙示録 14章1～5節

＜新改訳第3版＞

新約聖書491頁

ヨハネの黙示録14章1～5節

＜塚本訳＞

新約聖書805～806頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
  - ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と神の御子の愛、2章～3章は、7つのアジアの教会への手紙、4～5章は、仔羊(羔羊)礼拝と天の大讚美、6～9章は、巻物開封、聖徒の戦い、10章は、神の恵みの啓示と審判、11章は、主の王即位と24人の長老の神礼拝、12章は、女性及び天使ミカエルと龍(悪魔・サタン)との戦い、13章1～10節は、龍(悪魔・サタン)礼拝を求める第一の獣との、11～18節は、第二の獣との戦いの箇所。
  - ◇ヨハネの黙示録14章1～5節は、天での小羊なる主への大讚美です。
- ⇒ヨハネ黙示録13:10で、神は、龍(悪魔・サタン)、第一の獣、第二の獣の猛威の中で、忍耐と信仰を求め、小羊が瑕なき人々を慰めます。

⇒HS師は、神戸のランバス記念幼稚園の卒園生だそうで、幼い時、教師から教えられた讃美歌が忘れられなかったそうです。

⇒それは讃美歌第2編の26番で、

1節と(おりかえし)は、次のようです。

ちいさなかごに花をいれ、さびしい人にあげたなら、  
へやにかおり満ちあふれ、くらい胸もはれるでしょう。

(おりかえし)

あいのわざはちいさくても、かみのみ手がはたらいて、  
なやみのおおい世のひとを  
あかるくきよくするでしょう。

⇒HS師には、幼子の時、教師を通して、神の福音讃美を心の奥深くに刻まれたことが、やがて人間の終末医療を支えて行く思いへと繋がっていることを思わせられます。

⇒私たちは、地上の人生の終わりを必ず迎えるのですが、その時、その心が何で満たされているかが重要なことだと気づかされます。

⇒「**龍(悪魔・サタン)、第一の獣、第二の獣**」は、恐怖感、不安な心に入って、**神の存在**を否定させ、**神なき自立した人間像**を見せますが、**龍(悪魔・サタン)、第一の獣、第二の獣**らは、自分たちの終末の姿は見せません。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第14章1～5節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録14章1～5節；ヨハネは、小羊が栄光と再臨のしるしであるシオンの山に立ち、瑕なき人々を慰め、彼らも、小羊に二大讚美をのささげている天の光景を啓示されました。

◇1～5節；塚本訳◆買われし十四万四千人 {第一の異象}

「1 また私は(一つの異象を)見た。すると視よ、仔羊がシオンの山(の頂)に立ってい給うた。そして、額に仔羊の名とその父(なる神)の名とを書かれている十四万四千人(の者)が彼と一緒にいた。(四十二か月の獣の時代は過ぎ、今や仔羊の支配が始まったのである。)

2 (たちまち)私は大水の轟きのような、また大雷の轟きのような(大きな)声を天から聞いた。そして私が聞いたその声は(あたかも)豎琴を弾く豎琴弾きの声のようであった。

3 彼らは玉座の前と四つの活物と(二十四人の)長老の前とで新しい歌をうたう。そして(仔羊の血を以て)地(上の人々の中)から買われた(神を信ずる)十四万四千人(の者)の外、誰もこの歌を聞くことは出来なかった。

4 彼らは(その身を)女に汚されなかった人達である。(皆)童貞であるからである。彼らは(地上にあった時、)仔羊の行く所には何処にでも随いて行く(のを常とした)人達である。彼らは人々の中から買われて、神と仔羊とのために初穂(の献げ物)となった(人達である)。

5 その口には虚偽がない。彼らは瑕なき者である。」と、ヨハネは、小羊の瑕なき人々への慰めと瑕なき人々の小羊への大讚美の光景が啓示されました。

◇ 1～2節;ヨハネは、「(四十二か月の獣の時代は過ぎ、今や仔羊の支配が始まった)」ことを告げる「仔羊がシオンの山(の頂)に立ち」、「給うて」、「額に仔羊の名とその父(なる神)の名とを書かれている十四万四千人(の者)が

彼と一緒にいて」、天から「大水の轟きのよう  
な大雷の轟きのような(大きな)声」、「**竖琴を  
弾く竖琴弾きの声**」を「**聞いた**」のです。

⇒ヨハネは、**龍(悪魔・サタン)**、「**第一の獣**」、  
「**第二の獣**」の**猛威・迫害の幻**を啓示されて、  
**気落ち**していましたが、**小羊**は、「**天のシオン  
の山**」に立ち、**天にある144,000人々の  
大讚美**を聞かせ、**慰め**を与えて下さいました。

⇒「**144,000人々**」は、**ヨハネ黙示録7:4**では、  
**神の印**を受けていて、「**殉教者**」であったこと  
を確認してきました。

⇒「**12**」、「**12**」×「**1000**」＝「**144,000**」と計算  
するお方があり、**神の御座の前に立つ聖徒**を  
現わしていると理解されています。**ヨハネも、  
小羊**を救い主と信じるすべての人々も、これ  
に加えられるとの**慰め**のしるしでもありました。

⇒**龍(悪魔・サタン)**や**獣の力・政治経済力**や  
**偽預言による誘惑の悪知恵の猛威**には、  
**殉教の死**をも覚悟しなければならなかったの  
です。今日も、**龍(悪魔・サタン)**らの**猛威**は  
おさまるところを知りません。

⇒「**忍耐**」と「**信仰**」が、求められています。

◇3～4節；「(仔羊の血を以て)地(上の人々の中)から買われた(神を信ずる)十四万四千人(の者)」で、「玉座の前と四つの活物と(二十四人の)長老の前とで新しい歌をうたう」人々は、①「女に汚されない」、②「童貞で」、③「仔羊の行く所には何処にでも随いて行き」、④「神と仔羊とのために初穂(の献げ物)となった」のでした。

⇒「144,000人々」の性格は、4つの特徴が記録されていますが、象徴的表現で、**神礼拝、神信仰、神への聴従**において**全き者**された人々であったことを表現したのです。

⇒これらの人々が、地上生活で失敗がなかったことを言っているのではなく、**罪**と決別するため、**神の恵みの下に忍耐し(留まり)、神信仰に徹して**生きたということなのです。

⇒誰も、**罪**を犯すことは回避できませんが、**罪**の生活の中に留まることから決別でき、**罪との決別**の道へと導いて下さるのが、**神の小羊なる主**を信じて受け入れた時、**神の御子**が賜った**神の聖霊**なのです。

⇒「**神の聖霊**」は、**先の4つの性質**のお方です。

◇5節;「彼ら(144,000人々)」は、「口には虚偽がなく」、神に対して「**瑕なき者である**」と、「**神の小羊**」は、ヨハネに啓示しておられます。

⇒「**瑕なき者**」とは、**神への犠牲**が「**瑕なきもの**」ということも、理解する必要がありますが、寧ろ、「**欠けなきこと**」であり、それは**144,000人々**の自己主張ではなく、**神の恵みの賜物・贈り物**なのです。

⇒「**瑕なき者である**」は、**欠点がないこと**ですから、人間の基準で見ると不可能な表現でしょうが、「**義の神**」の基準では、どんなに欠点が沢山あっても、**神への信頼・服従**という**神信仰・神礼拝の心**をもって、**恵みの神**から「**神の義**」を受取れば、**神は、「瑕なき者である**」と宣言し、「**天の144,000人々**」の仲間として受け入れ、**大讚美**に加えて下さるのです。「**瑕**」は、**神なき心**を示しています。

⇒旧約聖書に族長ヤコブは、人間の基準では、欠点だらけで、父イサクを騙し、兄エサウから長子の権利を奪い取りましたが、**神**は逃亡中のヤコブに現れ、天に届く梯子を見せ、また、人の姿をもって、ヤコブと戦って下さった。



## 結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と神の御子の愛、2章～3章は、7つのアジアの教会への手紙、4～5章は、仔羊(羔羊)礼拝と天の大讚美、6～9章は、巻物開封、聖徒の戦い、10章は、神の恵みの啓示と審判、11章は、主の王即位と24人の長老の神礼拝、12章は、女性及び天使ミカエルと龍(悪魔・サタン)との戦い、13章1～10節は、龍(悪魔・サタン)礼拝を求める第一の獣との、11～18節は、第二の獣との戦いの箇所です。
- ◇ヨハネの黙示録14章1～5節は、天での小羊なる主への大讚美です。

- ⇒「**神の栄光の御座**」での「**24人の長老**」と「**4つの生き物**」の**神礼拝・神讚美**は、「**主キリスト・イエス様が天のみならず、地の上・この世でも、王となり給うたことを感謝**」する結末を与えられています。
- ⇒地上に今生かされています私たちも、「**神礼拝・神讚美**」は、この幻のように実現することを信じて、「**主がこの世の王となり給うたことを感謝**」すると、告白しています。
- ⇒「**死**」という最大の苦難を思う前に、「**恵みの約束の神**」に思いを向けたいと、願います。
- ⇒ヨハネ黙示録は、「**苦難**」先にある「**神の救い**」という「**神の恵み**」を見せ、また指し示します。
- ⇒「**龍(悪魔・サタン)**」は、「**神のようになる**」目的を放棄していませんで、「**天では**」、「**彼らの(いる)場所が無くなった**」のですが、投げ落とされた地上で、「**神礼拝者・神信仰者**」を「**訴える本務**」を放棄することはしません。
- ⇒「**龍(悪魔・サタン)**」は、部下の「**第一の獣**」や「**第二の獣**」を呼び出し、**神礼拝者のいのち**を狙います。

- ⇒ **龍(悪魔・サタン)**の働く期間も、1260日、3年半と制限されていましたが、**第一の獣**、**第二の獣**の働きも、42か月・3年半と制限されています。
- ⇒ **神**が「**龍(悪魔・サタン)**」、「**第一の獣**」、「**第二の獣**」に既に勝利して下さっていますが、その結果は、今の時代においては、**神信仰**によって受け入れる方法のみ知るように**神**は備えておられるのです。
- ⇒ **龍(悪魔・サタン)**が、支配するこの世は、荒野ですから、**神の聖徒**には、苦難を回避できないため、「**忍耐と神信仰**」(13:10)が求められたと同様、**第一、二の獣の迫害**に対しても、「**神信仰と忍耐**」がもとめられます。
- ⇒「**神礼拝**」に生きるために、「**日々心を神に**」向け、「**常に喜べ、絶え間なく祈れ、(幸不幸、)何事についても(神に)感謝せよ。これ(ら三つ)は神がキリスト・イエスに於て君達に求め給うものである。**」のみことばを、繰り返し、繰り返し口にして、祈りましょう。
- ⇒「**144,000人々**」は、「**瑕なき者**」で、「**神の義**」に与った私たちの目指すべき人々です。

⇒最後に、聖書を2箇所朗読します。

ヨハネ第1 1:9塚本訳

もし罪を正直に言うならば、神は真実で、正しいお方であるから、わたし達の罪を赦し、あらゆる不義から清めてくださるのである。

ヨハネ第1 3:5～6塚本訳

5 あなた達はキリストが(地上に)自分を現わされたのは、(人の)罪を取りのぞくためであることを知っている。その方の中には罪がないからである。

6 (罪なき)彼に留っている者はだれも、罪を犯さない。罪を犯す者はだれも、彼を見たことがなく、知ってもいないのである。